

国内経済情勢

観 概

企業の資金需要は依然低調が続いているが、金融機関の貸出態度には慎重のなかにも次第に積極化の気配がみられ、企業金融はさらに引きゆるむ傾向を示している。一方、メーカーは、市況の立て直しに本腰を入れており、財政需要増加への期待と相まって、ここ一両月商品市況は総じて立ち直りを示してきた。主力商品の上げ足がかなり急速であったことなどから、今後これまでのような騰勢は予想しえないが、反面供給抑制を主軸に商品需給関係は多少とも回復の方向に向かいつつあると思われるので、目立った落込みもまずないと考えられる。需要面ではこれまでのところさしたる動意がみられず、生産は引き続き抑制基調にあるが、メーカー製品在庫は全体として依然高水準を示している。

国際収支は、長・短資本が引き続き逆調を示したものの、経常収支の大幅受超によって、久方ぶりに黒字となった。

企業金融はさらに緩和

8月の銀行券は449億円の還収超となったが、財政資金は1,296億円に上る引揚超過を示したため、本行貸出は944億円増加した。9月にはいり金融市場は一段と引きゆるみ、コール・レートは月初来各条件物とも一厘低下した。

8月の全国銀行貸出増加額は1,552億円と前年同月を1割方下回った。前年の証券関係貸出が高かったことなどを考慮すると、貸出の実勢は、この計数の示すほど弱いとはみられないが、総じて低調の域を脱していない。これは、企業の資金需要がなお停滞を続け、とくに増加運転資金需要な

どに目立った動意がみられないためである。

他方、金融機関は、取引先の選別など基本的には慎重な貸出態度を維持しているものの、金融市場の引き続き緩和を背景として、積極化の意欲は次第にたかまりつつあり、一部にはかなりの貸出増加を示した向きもあった。この傾向は9月にはいってからも続いている。こうした状況から、大企業、優良中小企業を中心に企業金融は一段と緩和しつつあり、商量の伸び悩みもあって、企業の手元現預金の水準はかなり高まってきている。

なお株式市場は引き続き活況を呈し、8月から9月初めにかけて株価もさらに上伸したが、その後はもみ合いが続いている。

商品市況は徐々ながら好転

8月から9月にかけての商品市況をみると、化学品、板紙などの一部になお軟化を続けるものもみうけられるが、7月下旬より反騰に転じた主力商品のうち、鉄鋼は一段と上伸し、繊維もまた8月に小幅訂正安のあと、9月にはいり再び上昇を示した。このほか、銅、セメント、上質紙、砂糖などでも下げ渋りないし小戻しの動きがうかがわれ、商品市況は全体として漸次好転を示してきた。

こうした市況の動きは、生産調整の強化や販売価格引上げに対するメーカー側のこれまでにない強い態度にささえられた面が大きい。さらに政府の景気対策に基づく先行き需要の増加など景況回復期待感があることも否めない。しかしこれまでのところ、実需には、季節的需要や出遅れていた官公需に若干の動意がうかがわれる程度でいまだ盛り上がり不足、このため9月中旬にはいり、鉄鋼などで騰勢鈍化ないし頭打ちを示す商品が少なからずみうけられる。

今後の商況については、上記の需要動向や、こ

此一両月における主力商品の上げ足がかなり急速であり、採算ラインを回復しないしこれに接近するものもふえていることなどから推して、これまでのような騰勢を持続するとは考えられない。しかし供給の抑制を主軸として商品の需給関係がともかくも改善の方向に向かいつつあるとみられるので、当面相場が大きく落ち込むようなこともまずないと思われる。

こうした商況を映じ、8月の本行卸売物価は、前月比+0.3%と半年ぶりに反騰を示し、また9月上旬、中旬もそれぞれ前旬比+0.3%、+0.2%と続騰した。

8月の消費者物価(東京)は、果物、魚介類など食料品の値上がりを主因に、+0.4%の反騰を示した。

生産減にもかかわらず、製品在庫はなお高水準

8月の鉱工業生産(季節調整済み、速報)は前月比-2.1%とかなり減少した。これには前2ヵ月完工の集中した電力向け大型機械の著減が大きく響いている。しかし、非耐久消費財の微増(食料品、繊維品中心)を除けば各財とも減産となり、総じて生産の抑制基調が続いていることに変わりはない。とくに鉄鋼は、粗鋼減産の影響で鋼材の生産もさらに減少し、全体としてかなりの減産となった。

8月の鉱工業出荷(季節調整済み、速報)は前月比-0.8%減少した。建設資材、消費財には若干の増加がみられたが、生産と同様、電力向け大型機械の反動減などを中心に、一般資本財が著減している。また生産財出荷は3ヵ月ぶりに減少したが、とくに鉄鋼の出荷が、粗鋼減産に伴い半製品を中心にかなり減少しているのが目立った。

8月の鉱工業メーカー製品在庫(季節調整済み、速報)は+0.5%と引き続き微増した。輸送機械、家庭電器などはかなり減少している。一方生産財は目立って増加しているが、これには粗鋼減産に伴う銑鉄、需要期を控えての灯油の増加なども含

まれている。こうした状況から、全体の製品在庫率指数は高水準を続けている。

設備投資は依然低調であり、先行指標である機械受注や、本行の短期経済観測(8月調査)をみても、企業の投資意欲は当面鎮静を続けるものと予想される。

経常収支は引き続き大幅黒字

8月の外国為替収支は、資本収支の引き続く逆調にもかかわらず、経常収支が大幅な受超となったため、総合では5ヵ月ぶりに黒字(34百万ドル)に転じた。すなわち、資本収支では、このところ流出を続けたユーロ・ダラーが当月は流入超に転じたこともあり、赤字幅は80百万ドルと、やや縮小しているが、長・短資本とも流出超過の基調を改めるには至っていない。他方貿易外収支は依然赤字幅を拡大する傾向を持續しているが、貿易収支が175百万ドルに上る受超となったため、経常収支は116百万ドルの大幅黒字を示した。

8月の輸出は、前年同月比為替で+27%、通関で+39%と依然高水準を続け、季節調整後の実勢でも前月比+3~4%増加した。商品別、仕向地別の動きをみても、従来の基調にとくに大きな変化はうかがわれない。先行指標である輸出信用状は、高水準ながら、米国における鉄鋼ストライキ回避の影響などもあつて、季節調整後の実勢ではこのところいくぶん伸び悩み傾向を続けている。

8月の輸入は前年同月比為替で+17%、通関で+9%の増加となった。これには前年水準が著しく低かったことも響いている。また季節調整後の実勢では前月比それぞれ+4%、+1%となったが、これはくず鉄の一時的な増加などによるものとみられ、輸入の基調に格別の変化があったとは考えられない。輸入信用状など先行指標の動きもなお落ち着いている。こうした輸出入の動きからみて、貿易収支は当面好調を続けるものと思われる。